

令和6年度

デジタル田園都市国家構想交付金活用事業

デジタル田園都市国家構想交付金活用事業

○ デジタル田園都市国家構想交付金の概要	P1
○ デジタル田園都市国家構想交付金の実績（各交付金別、事業名、担当課名）	P2
1 デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ)	
(1) 西吾妻山×天元台高原×白布温泉エリア リボーンプロジェクト	観光課 P2
(2) 米沢市版DMO設立及び推進事業	観光課 P3
(3) 持続可能な繊維関連産業の創出を目指す米沢ファッションベースキャンププロジェクト	商工課 P4
2 デジタル田園都市国家構想交付金(デジタル実装タイプ)	
(1) 米沢市統合型GIS整備事業	魅力推進課 P5
(2) 除雪車運行管理システム導入事業	土木課 P6
3 デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生拠点整備タイプ)	
(1) 廃校校舎のリノベーションによる芸術文化を核とした地域活性化事業	社会教育文化課 P7

デジタル田園都市国家構想交付金の概要

1 デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ)

- ・地方版総合戦略に位置付けられたデジタル社会の形成に寄与する観光や農林水産業の振興等地方創生に資する地方公共団体の自主的・主体的な取組を支援する交付金。
- ・本市が活用した交付金の型:先駆的・優良事例の横展開を図る「横展開型」(補助率は1/2。(原則)最長3年間事業)。
- ・令和5年度より、「地方創生推進交付金」から「デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ)」(以下「地方創生推進タイプ」という。)に交付金の名称が変更になっている。

【本市が採択を受けた事業一覧】				※未完了事業における総事業費・交付金充当額は見込み額。		
No.	事業名	タイプ	交付対象期間	総事業費(円)	交付金充当額(円)	備考
(1)	西吾妻山×天元台高原×白布温泉エリア リボーンプロジェクト	横展開	令和2年度～令和6年度	326,297,685	163,148,840	※企業版ふるさと納税の併用によるインセンティブ活用により2か年延長
(2)	米沢市版DMO設立及び推進事業	横展開	令和4年度～令和8年度	460,129,720	230,064,857	※企業版ふるさと納税の併用によるインセンティブ活用により2か年延長
(3)	持続可能な繊維関連産業の創出を目指す米沢ファッションベースキャンププロジェクト	横展開	令和6年度～令和8年度	14,400,000	7,200,000	

2 デジタル田園都市国家構想交付金(デジタル実装タイプ)

- ・デジタルを活用した地域の課題解決や魅力向上の実現に向けて、地方公共団体に対し、その事業の立ち上げに必要な経費を支援する交付金。
- ・本市が活用した交付金の型:他の地域等で既に確立されている優良なモデル・サービスを活用して迅速に横展開する取組を支援する優良モデル導入支援型「TYPE1」(補助率は1/2、単年度のみ交付対象)。

【本市が採択を受けた事業一覧】				
No.	事業名	事業実施年度	総事業費(円)	交付金充当額(円)
(1)	米沢市統合型GIS整備事業	令和5年度	56,782,000	28,391,000
(2)	除雪車運行管理システム導入事業	令和6年度	54,450,000	27,225,000

3 デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生拠点整備タイプ)

- ・地方版総合戦略に位置付けられ、地方公共団体が自主的・主体的に実施する先導的な事業に必要な施設の新設・改修等を推進するために措置された交付金。
- ・本市が活用した交付金の型:旧「地方創生拠点整備交付金」(補助率は1/2、単年度のみ交付対象)。
- ・令和5年度より、「地方創生拠点整備交付金」から「デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生拠点整備タイプ)」(以下「地方創生拠点整備タイプ」という。)に交付金の名称が変更になっている。

【本市が採択を受けた事業一覧】				
No.	事業名	事業実施年度	総事業費(円)	交付金充当額(円)
(1)	廃校校舎のリノベーションによる芸術文化を核とした地域活性化事業	令和2年度	86,746,000	26,019,000

デジタル田園都市国家構想交付金の実績

1 デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ)

(1)交付対象事業名:西吾妻山×天元台高原×白布温泉エリア リボーンプロジェクト

事業概要	交付金の種類	申請主体
西吾妻山・天元台高原・白布温泉エリアを一体として捉え、次世代に残せる魅力溢れるエリアに再生するため、地域外の活力と地元及び関係機関が一体となってハード・ソフトの両面から持続可能な再生事業に取り組むもの。	地方創生推進タイプ	米沢市
	事業期間	交付対象期間
	5年間	令和2年度～令和6年度

対象経費及び交付金充当額(円)

	総事業費	1年目 (令和2年度)	2年目 (令和3年度)	3年目 (令和4年度)	4年目 (令和5年度)	5年目 (令和6年度)
事業費	326,297,685	54,047,294	77,048,177	79,396,029	61,037,672	54,768,513
うち交付金充当額	163,148,840	27,023,647	38,524,088	39,698,014	30,518,836	27,384,255

KPI

指標名	基準値	単位	1年目 (令和2年度)			2年目 (令和3年度)			3年目 (令和4年度)			4年目 (令和5年度)			5年目 (令和6年度)		
			目標値	実績値	達成	目標値	実績値	達成	目標値	実績値	達成	目標値	実績値	達成	目標値	実績値	達成
天元台高原来台者数(ロープウェイ利用者)	55,000	人	56,000	42,451	×	58,000	42,692	×	60,000	45,849	×	62,500	52,453	×	65,000	43,599	×
天元台×白布温泉街のエリア一帯を回遊した入込客数	0	人	500	1,203	○	1,000	1,203	○	1,500	1,900	○	2,000	2,124	○	2,500	2,805	○
西吾妻山一帯におけるトレッキング等の入込客数	8,200	人	8,500	9,096	○	8,750	8,031	×	9,000	9,622	○	9,250	9,669	○	9,500	8,473	×
白布温泉街の入湯税額	3,515,550	円	3,600,000	2,176,050	×	3,700,000	2,848,800	×	3,800,000	2,644,275	×	3,900,00	2,175,000	×	4,000,000	1,966,500	×

【令和6年度実施事業】

事業内容	振り返り(評価)	今後の展開
○広告宣伝プロモーション事業 ・PR TIMESを利用したプレスリリースの配信。 ・著名プロスノーボーダーを招聘してデモ滑走等のプロモーション活動を展開。 ・天元台湯元駅に設置したデジタルサイネージを活用し、白布温泉各旅館の営業情報、イベント情報等の随時更新及び情報発信を実施。 ○誘客事業 ・エリア内の各事業者が連携し、天元台高原の自然環境を生かしたイベントとして、トレイルランニング大会や「手ぶらでキャンプ事業」を実施。 ・天元台高原スキー場の冬季誘客イベント(天元台アップデート)や、パノラマ遊覧用圧雪車キャビンを活用したツアーを実施。 ・囲碁と天元台のアクティビティを組み合わせたイベント「アクティブーゴフェス2024」を開催。 ○景観形成事業 ・温泉街中心部及び天元台湯元駅にある案内板について、エリアとして統一感のある景観整備を実施。 ○人材育成事業 ・エリアの関係・交流人口の増加に向けて、情報発信誌「白布遊人」を発行。 ○拠点整備事業 ・観光客が温泉街周辺エリアを安全かつ気軽に散策できるよう、自然体験施設「遊歩道」の整備を実施。	【令和6年度事業の振り返り(KPI)】 ・天元台高原来台者数は、夏期の天候不順や、令和7年2月に発生した断水に伴う営業縮小等が影響し、目標値を下回った。 ・エリア一体を回遊した入込客数は、天元台高原と温泉旅館等が連携した割引券の発行等の効果により、目標値を上回った。 ・トレッキング等の入込客数については、天候不順に伴うロープウェイ等の運休や、断水に伴うアルプ天元台の営業休止等が影響し、目標値を下回った。 ・入湯税額は、主要温泉旅館等の閉館及び長期休館等の影響を受け、目標値を下回った。 【事業全体をとおしての振り返り】 ・天元台、白布温泉各旅館等の関係者が、エリア内の現状を再認識するとともに、連携して取り組んでいくことの意識が共有・醸成されことにより、自分たち自身で各種プロジェクトを運営していくための体制を構築することができた。 ・「天元台アップデート」事業は、国内外で大きな影響力を持つプロスノーボーダーを招聘してプロモーションを展開したことにより、冬期間における目玉イベントとして定着した。その結果、友人・同僚同士などで来場するスノーボーダーのグループが大幅に増え、新たな顧客の獲得及び入込数の増加につながった。 ・ウェブサイト、SNSやプレスリリース配信サービスなどを活用した情報発信について重点的かつ継続して実施したことにより、ヤフー検索における「温泉地の検索伸び率ランキング」で全国1位を獲得するなど、認知度向上に繋げることができた。 ・新型コロナの影響はあったものの、現状としては誘客事業の収入などにより十分な自主財源を確保できるまでには至っていない。このため、より事業収入が見込めるような事業を実施するとともに、常に効果を検証しながら改善も加えることで、事業効果を高めていく必要がある。	・ウェブサイトやSNS、デジタルサイネージ等を活用した効果的な情報発信を継続して行っていくとともに、各事業のターゲットを明確にしたPR活動に取り組むことにより、リピーターや関係・交流人口の増加につなげていく。 ・事業期間を通じて安定的な収益をあげることができた「手ぶらでキャンプ事業」や、圧雪車キャビンを活用したスノーアクティビティ等を軸としながら、さらなる誘客に結び付けていくことで自主財源の確保を図る。 ・エリア内の組織の見直しを図りながら、天元台と各温泉旅館等が連携したプランを造成するなど、エリア一体の誘客事業を展開していくとともに、米沢市版DMOや小野川温泉等の関係団体等とも協力体制を構築していくことにより、観光客の市内周遊・滞在を促進させ、地域経済の活性化へ繋げていく。

(2)交付対象事業名:米沢市版DMO設立及び推進事業

事業概要	交付金の種類	申請主体
米沢市版DMOを設立し「観光データベースのマネジメント」及び「マーケティング、プロモーションを中心とした観光事業のDX化」を推進し、データを根拠とする「稼ぐ力」を創出し、持続可能な観光地域づくりを目指すもの。	地方創生推進タイプ	米沢市
	事業期間	交付対象期間
	5年間	令和4年度～令和8年度

対象経費及び交付金充当額(円)

	総事業費	1年目 (令和4年度)	2年目 (令和5年度)	3年目 (令和6年度)	4年目※ (令和7年度)	5年目※ (令和8年度)
事業費	460,129,720	66,541,837	106,295,955	96,491,928	98,400,000	92,400,000
うち交付金充当額	230,064,857	33,270,918	53,147,976	48,245,963	49,200,000	46,200,000

※:計画額

KPI

指標名	基準値	単位	1年目 (令和4年度)			2年目 (令和5年度)			3年目 (令和6年度)			4年目 (令和7年度)			5年目 (令和8年度)		
			目標値	実績値	達成	目標値	実績値	達成	目標値	実績値	達成	目標値	実績値	達成	目標値	実績値	達成
観光消費額	14,540,000	千円	15,158,000	17,430,000	○	15,928,000	17,963,000	○	16,702,000	17,961,000	○	17,525,000	—	—	18,378,000	—	—
地域アプリのアクティブユーザー数	0	人	10,000	0	×	22,000	0	×	46,000	0	×	61,000	—	—	73,000	—	—
観光情報サイトのPV数	0	PV	300,000	135,000	×	660,000	495,000	×	1,020,000	1,260,000	○	1,380,000	—	—	1,740,000	—	—

【令和6年度実施事業】

事業内容	振り返り(評価)	今後の展開
○観光デジタルトランスフォーメーション事業 ・観光情報集約プラットフォーム事業 ・観光情報分析事業 ○地域の魅力磨き上げ事業 ・共同提案事業 ・米沢型インバウンド事業 ・広域連携事業 ・食文化アルカディア(理想郷)・米沢創造事業 ・米沢の歴史文化とSDGs事業 ○プロモーション事業 ・広告・宣伝・プロモーション ・観光大使を活用したプロモーション事業 ○地域商社事業 ・地域資源の磨き上げ・商品づくり等事業	○観光デジタルトランスフォーメーション事業 システムやBIツールを活用した観光データの収集、分析を進め、データに基づいた戦略的なマーケティングを推進することができた。 ○地域の魅力磨き上げ事業 令和5年度に引き続き、台湾での誘客プロモーションを強化することでインバウンド観光客の獲得に注力した。また、アニメツーリズム事業によるプロモーションを積極的に行い、本市への誘客を図った。 ○プロモーション事業 インバウンド施策の一環として、多言語対応可能なおまつりのプロモーション動画を制作し、海外からの観光客に向けて米沢の魅力を効果的に発信できるようにした。また、米沢駅及びプラレールとコラボしたイベントを開催し、駅周辺の賑わいの創出及び市内商業施設への誘客を図った。 ○地域商社事業 おまつりに連動した着地型旅行商品の造成を行い、地域滞在価値の向上を図った。また、米沢市の繊維製品等の地域資源を国際市場に発信し、今後の販売チャネル開拓と国際的な認知度向上を図った。	○観光デジタルトランスフォーメーション事業 観光データの収集及び分析を継続し、基盤となる「置賜観光情報共有データベース」を活用し、効果的な情報発信を行っていく。 ○地域の魅力磨き上げ事業 台湾をはじめとした海外の旅行代理店との協働を通じて、インバウンド観光客の誘致を図る。また、これまで収集、分析してきた観光情報を、地域の事業者や団体から提案される企画に反映させることで、より効果的な事業展開を図る。 ○プロモーション事業 宿泊施設のオンハンドデータ等のデータを活用し、プロモーション内容や地域サービスの改善を図り、リピーターの増加や顧客満足度の向上を狙う。 ○地域商社事業 国内商談会やポップアップイベントへの参加を通じ、新たな観光体験の提供や回遊性の向上を目指す施策を推進するとともに、観光、文化、商品を一体的に発信し、持続可能な観光産業の発展を目指す。

(3)交付対象事業名:持続可能な繊維関連産業の創出を目指す米沢ファッションベースキャンププロジェクト

事業概要	交付金の種類	申請主体
本事業は、伝統的な繊維関連産業の再生・活性化を目的にサステナブルファッションの推進により、産業の高付加価値化を図るものである。 高品質な製品開発、トレーサビリティ認証に向けた取組、環境配慮や人権遵守も含めたサステナビリティの推進により、需要獲得のために海外市場を念頭においた国際的な販路開拓等を実施していくことで、本市産業の底上げを図り、『高付加価値化による持続可能なものづくり産業の実現』につなげる。 具体的には、各種セミナー・勉強会等の実施により企業ブランド力の向上を図り、また、国内外に向けて各社の商品や製造工程を情報発信することで最終的に販路開拓に繋げるものとする。	地方創生推進タイプ	米沢市
	事業期間	交付対象期間
	3年間	令和6年度～令和8年度

対象経費及び交付金充当額(円)

	総事業費	1年目 (令和6年度)	2年目※ (令和7年度)	3年目※ (令和8年度)
事業費	14,400,000	5,000,000	4,800,000	4,600,000
うち交付金充当額	7,200,000	2,500,000	2,400,000	2,300,000

※:計画額

KPI

指標名	基準値	単位	1年目 (令和6年度)			2年目 (令和7年度)			3年目 (令和8年度)		
			目標値	実績値	達成	目標値	実績値	達成	目標値	実績値	達成
地域における新規雇用者数	0	人	0	1	○	1	—	—	3	—	—
本プロジェクトへの参画企業数	5	者	6	5	×	7	—	—	8	—	—

【令和6年度実施事業】

事業内容	振り返り(評価)	今後の展開
○事業全体のコーディネート業務委託料 専任のコーディネーターを任用し、事業の企画・運営、進捗管理及び外部専門家の招聘等に係る各種調整業務を実施。 ○情報発信事業費(HP・動画デザイン作成・SNS配信等) ・参画企業を中心とした米沢産地の情報発信やブランディングの強化等、今後の国内外販路開拓の基盤となる多言語対応の公式WEBサイトの制作の実施。(https://yfbc.jp/) ・公開日:令和7年3月31日 ・対応言語:日本語、英語、中国語 ○勉強・セミナー等費用 市場の動向や海外におけるメイドインジャパン製品の評価を学び、今後の事業展開に繋げるため、海外の専門家による講演会を開催。	計画期間の1年目である令和6年度は、事業に参画する市内繊維関連企業及びコーディネーターを中心とした運営団体「米沢ファッションベースキャンププロジェクト推進協議会」を組織し、米沢産地の新たな価値の創出を目指し各種事業を展開した。 KPIについて、計画中、参画企業数を毎年度1社ずつ増加させることを見込んだが、着実な事業の推進に向けて、初年度は開始時点の成員で事業基盤の構築に専念することとし、企業数は現状維持とした。一方、本事業の実施により、参画企業において1名の新規雇用がなされた。 令和6年度は各社の課題を抽出し、伝統に裏打ちされた高い技術力と魅力ある製品を受発注機会に繋げるため、情報発信等の手法を現在の業界や消費者の動向に合わせて進化させることとした。これらを踏まえて整備を行った本事業の公式WEBサイトならびにSNSは多言語に対応し、今後の国内外販路開拓の推進及び情報発信のプラットフォームとなるものであり、次年度以降、更新頻度を高め積極的に活用を行っていく。	令和7年度も引き続き国内外の経済情勢を注視し、市場動向や企業ニーズに沿った事業を各種展開することにより、本市繊維関連産業の一層の発展を目指していく。 (1)情報発信事業 ① 米沢産地及び参画企業の競争力強化に向けた各種分析・調査 ② 公式WEBサイト・SNS等の運用 ③ 国内外販路開拓の実施 (2)研究会等開催事業 繊維関連産業を取り巻く課題や産地ブランド力の向上、独自トレーサビリティ制度等に関する勉強会・セミナーを開催

2 デジタル田園都市国家構想交付金(デジタル実装タイプ)

(1)交付対象事業名:米沢市統合型GIS整備事業

事業概要	交付金の種類	申請主体
本市が保有する各種行政情報を庁内共用GISに実装し、市民公開GISにより正確な情報をわかりやすく公開する。また、庁内共用GISや現地調査システムによる、内部事務の効率化による「サービス提供スピード」の向上を図る。	デジタル実装タイプ	米沢市
	事業期間	交付対象期間
	1年間	令和5年度

対象経費及び交付金充当額(円)

	総事業費 (令和5年度)
事業費	56,782,000
うち交付金充当額	28,391,000

KPI

指標名	単位	1年目 (令和5年度)			2年目 (令和6年度)			3年目 (令和7年度)		
		目標値	実績値	達成	目標値	実績値	達成	目標値	実績値	達成
市民公開GISサイトの閲覧数	アクセス数(UU)	100	492	○	10,000	12,722	○	67,000	—	—
市民公開GISに搭載したデータ数	データ件数	7	6	×	10	17	○	20	—	—
図面照会等の窓口来訪者の低減	低減割合(%)	—	—	—	10	2	×	20	—	—
デジタル化した行政情報の数	データ件数	3	3	○	10	18	○	15	—	—
市民公開GISによる情報公開に係る満足度	ポイント	—	—	—	3.0	3.7	○	3.5	—	—
庁内共用GISの活用によるサービス提供までの期間短縮に係る満足度	ポイント	—	—	—	3.0	3.3	○	3.5	—	—
庁内共用GISの活用による窓口等の待ち時間に係る満足度	ポイント	—	—	—	3.0	3.5	○	3.5	—	—
サービス提供までの期間を短縮した行政サービス数	サービス数	3	2	×	10	3	×	15	—	—
窓口等の待ち時間を短縮した行政サービス数	サービス数	3	2	×	10	5	×	15	—	—

【令和6年度実施事業】

事業内容	振り返り(評価)	今後の展開
○システム運用保守事業 導入作業については、既に完了しているため、現在はシステム保守と運用管理を行うとともに、システムの周知や効果的なシステム活用の検討等を行っている。 ○市民公開GISへのデータ搭載 都市公園や道路、上下水道情報、市界・字界など、市民からの閲覧機会の多い11データを市民公開GISに搭載した。	・公開データを当初目標値より増やして搭載したことで、サイトの閲覧数は上昇し、目標値を上回ることができた。 ・データをWEBで閲覧できることで、公開に係る満足度のほか、窓口の待ち時間に係る満足度は当初目標を上回ることができた。 ・市民サービス向上に繋がったサービス数や市民の来庁回数については、目標値を下回っているものの、一定の成果を上げることができた。今後は来庁不要となるようなサービスを含む、市民サービスの向上を最終目標としてシステムの周知や内部事務の効率化を推進する。 ・実績値の更なる向上に向け、未周知・未活用の利用者に対する周知やサービス向上に重点を置き、利用者全体の利便性向上を目指す。	・前年度に引き続き、市民公開コンテンツの拡充やサービスの周知を実施する。なお、市民公開コンテンツの拡充に当たっては、住民のニーズにあったコンテンツを公開できるように努める。 ・新たにシステムを活用し、内部事務を効率化することで各行政サービスの提供スピードの向上を図る。特に、アナログ改革や部署横断的な内部事務の再構成を併せて実施することで、市民サービスの一層の向上に努める。

(2)交付対象事業名:除雪車運行管理システム導入事業

事業概要	交付金の種類	申請主体
冬季期間降雪時の市道除雪作業について除排雪業者に委託をしているが、除雪の状況は、各業者へ電話等により確認している。そのため、市内全体を把握するのに時間差があり、住民の要望・苦情に迅速かつ適切に対応できないことが課題となっている。 除雪車運行管理システムの導入により、除雪状況をウェブサイトでリアルタイムに公表することで、市民からの問い合わせ、要望への対応速度を高めサービス向上を図る。	デジタル実装タイプ	米沢市
	事業期間	交付対象期間
	1年間	令和6年度

対象経費及び交付金充当額(円)

	総事業費 (令和6年度)
事業費	54,450,000
うち交付金充当額	27,225,000

KPI

指標名	単位	1年目 (令和6年度)			2年目 (令和7年度)			3年目 (令和8年度)		
		目標値	実績値	達成	目標値	実績値	達成	目標値	実績値	達成
公開サイトへのアクセス数	件	2,500	15,128	○	3,000	—	—	3,500	—	—
除雪関連の市民からの問い合わせ件数	件/cm	1.5	1.8	×	1.4	—	—	1.3	—	—
除雪に関する市民満足度	%	42		—	45	—	—	48	—	—

【令和6年度実施事業】

事業内容	振り返り(評価)	今後の展開
除雪車両に携行したGPS端末等を用いて、除雪車両の作業状況管理及び除雪費用の算出ができるシステムの構築を行い除雪業務の効率化・適正化を行うとともに、冬期においてインターネットを通じ除雪車の位置情報をリアルタイムで把握し見える化をすることで市民サービスの向上を図ることを目的として、「除雪車運行管理システム」の導入を行った。 (事業の概要) ・除雪車運行管理システム(管理用)構築 ・除雪車運行管理システム(公開用)構築 ・除雪データの作成 ・通信型GPS端末等購入 ・GPSロガー購入 ・クラウド環境構築及びその利用 ・システム運用支援	・「公開サイトへのアクセス数」については、目標値を大幅に超える数となり、除雪について、市民の関心の高さがうかがえる結果となった。 ・「除雪関連の市民からの問い合わせ件数」については、、2月5日から2月9日にかけて、JPCZ(日本海寒帯気団収束帯)が発生し、最強・最長の寒波が流入し、5日間で114cmの降雪となり、2月9日時点の積雪深が162cmと、過去5ヵ年平均積雪深の2倍以上の値となり、交通機関に混乱が発生するなど市民生活への影響が大きかったことから、問い合わせ件数が増加したため、目標値を達成することができなかった。 ・「除雪に関する市民満足度」については、令和7年度に調査を実施する予定であるため、満足度については精査できていない。	市民へ公開するサイトの情報の精度を高めるとともに、システム導入で得られたデータを用いて、除雪路線の見直しなどを行い効率化を進め、「市民満足度」の向上に努める。 また、安全・安心な冬の道路交通を確保するため、「積雪深センサー」を設置し、積雪状況を24時間リアルタイムに可視化し、パソコンやスマートフォンから、いつでも積雪状況が確認できる状態にすることで、「人材の確保」「迅速な除雪判断」「除雪業務の効率化」を図り、「市民満足度」の向上に努める。

3 デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生拠点整備タイプ)
(1)交付対象事業名:廃校校舎のリノベーションによる芸術文化を核とした地域活性化事業

事業概要	交付金の種類	申請主体
旧南原中学校(H31.3閉校)の一部を活用し、特色ある地域づくりを推進するため、芸術作品等の創作活動を行うレンタルスペースとして使用できるよう施設設備等の改修を行った。令和3年度からは、以下の目的に沿った事業を行っている。 ①様々な芸術家等を本市に呼び込み、交流人口や関係人口の増加を図るなど、芸術文化活動を切り口にした地域活性化を目指す。 ②南原地区を中心に本市の新たな芸術文化の発信拠点の形成を目指し、本市の芸術文化の新たな展開を促す。 ③若手芸術家の育成とともに芸術文化活動の活性化を図る。	地方創生拠点整備タイプ	米沢市
	事業期間	交付対象期間
	1年間	令和2年度

対象経費及び交付金充当額(円)

	総事業費 (令和2年度)
事業費	86,746,000
うち交付金充当額	26,019,000

KPI

指標名	基準値	単位	1年目 (令和2年度)			2年目 (令和3年度)			3年目 (令和4年度)			4年目 (令和5年度)			5年目 (令和6年度)		
			目標値	実績値	達成	目標値	実績値	達成	目標値	実績値	達成	目標値	実績値	達成	目標値	実績値	達成
(仮称)アートステーションにおける年間創作作品発表数	0	点	0	0	—	5	0	×	15	0	×	35	10	×	60	8	×
ワークショップ実施回数	0	回	0	0	—	6	0	×	24	1	×	48	1	×	48	2	×
南原コミュニティセンター年間利用者数	14,971	人	14,971	5,152	×	15,971	6,560	×	17,971	10,765	×	18,471	16,814	×	18,971	14,796	×

【令和6年度実施事業】

事業内容	振り返り(評価)	今後の展開
○芸術文化拠点形成事業 ・日本画家福王寺一彦氏が創作活動拠点として利用しており、世界遺産高野山金剛峰寺に奉納する襖絵を制作し、よねざわ市民ギャラリーでの展示を実施。 ・4月に福王寺氏による日本画ワークショップを実施。 ○芸術文化交流促進事業 ・青年会議所主催事業ミナミハラアートウォークへの共催。 ○芸術人材育成事業 ・5月に小学生親子を対象としたワークショップ「米沢版洛中洛外図を描こう」を実施。	【令和6年度事業の振り返り(KPI)】 ・芸術創作活動施設を拠点としている芸術家が福王寺氏のみであるため、年間創作作品発表数は目標を大きく下回った。 ・ワークショップやミナミハラアートウォーク事業を開催しているが、ワークショップ実施回数、南原コミュニティセンターの利用者数は当初目標値を大きく下回った。 【事業全体をとおしての振り返り】 ・ミナミハラアートウォーク事業により、南原地区内で活動している芸術家、作家の方を活動内容と共に周知したことで、地区民の意識の変化が感じられた。 ・福王寺一彦氏の創作活動の発表やミナミハラアートウォークの継続実施により、南原地区を中心に新たな交流が生まれ、芸術活動の活性化に繋がっている。 ・職員が常駐している施設でないことから、特に冬期間の施設管理や利便性の向上が課題となった。	・福王寺一彦氏が芸術創作活動施設で制作した作品の展示企画をはじめ、独自の事業を展開し、市民が芸術文化に触れる機会を拡充していく。 ・ミナミハラアートウォークの継続維持のため今後も共催事業とし、令和4年4月に隣接地に開館した南原コミュニティセンターの協力を得ながら、地域の芸術家の活動の促進を図る。